



社会福祉法人 人を支える 生活を支える

佐賀整肢学園

SAGA SEISHI GAKUEN Since 1960

- 発行：令和3年3月
- 発行元：社会福祉法人 佐賀整肢学園
- 発行者：理事長 中尾清一郎
- 編集：法人広報誌編集委員

学園タイムス

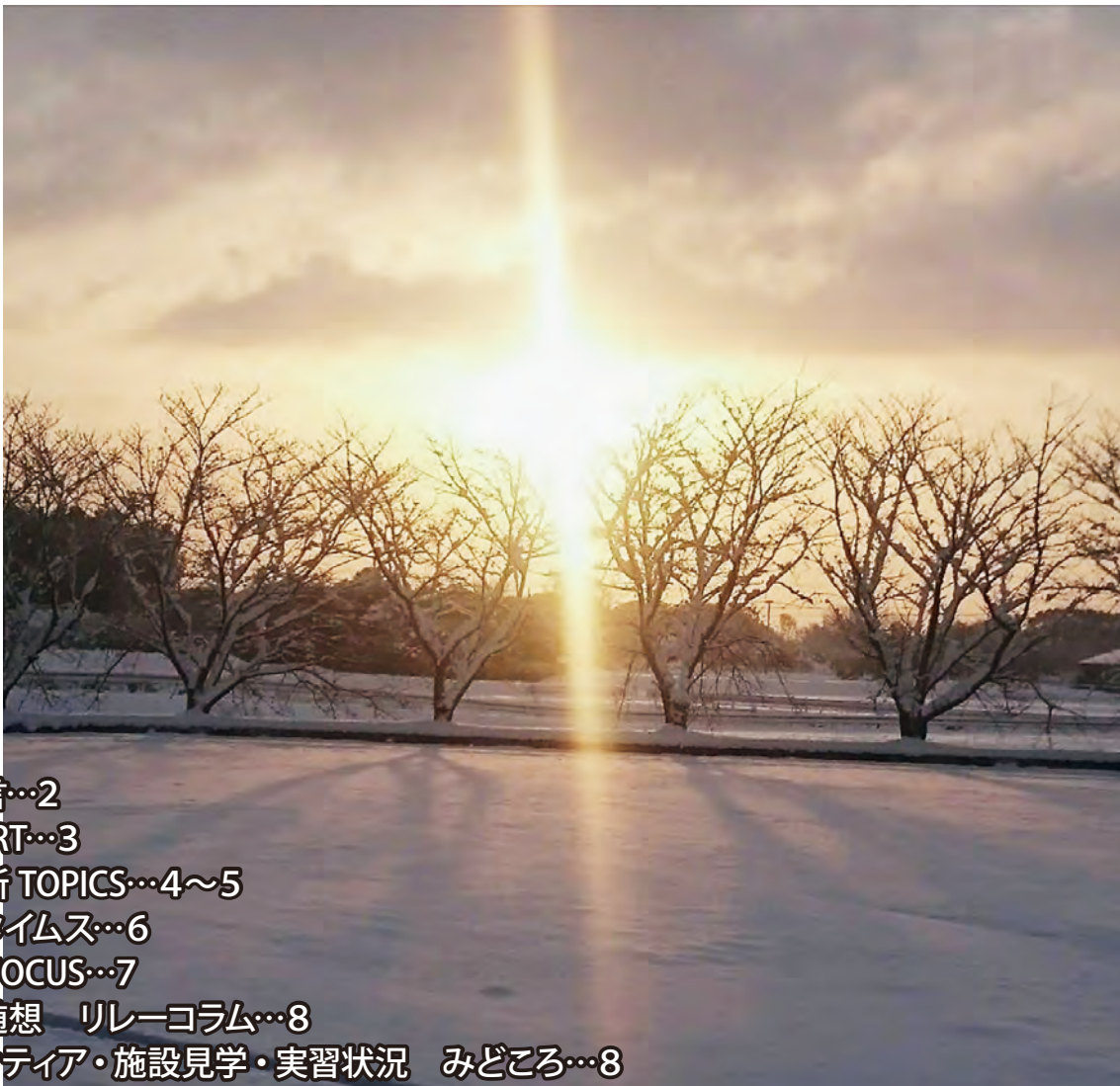
2021-3 Vol.29

社会福祉法人 佐賀整肢学園

Sagaseishigakuen times

「朝日と雪」

オークスグラウンドにて。1月9日夜勤明けの朝、雪雲の間から朝日が差した瞬間です。金立は山の麓にあるためか佐賀市内とは比べものにならないくらい雪が降り積もります。しんと降り続き寒い夜を過ごす、ふかふかに降り積もった真っ白な雪。外には、寒さも仕事疲れも吹き飛ばす素適な雪景色が広がっていました。



- 巻頭言…2
- REPORT…3
- 事業所 TOPICS…4～5
- 学園タイムス…6
- 学園 FOCUS…7
- 局長随想 リレーコラム…8
- ボランティア・施設見学・実習状況 みどころ…8

法人事務局 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立2215-27 TEL0952-97-6611 FAX0952-97-6611	こども発達医療センター 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立2215-27 TEL0952-98-2211 FAX0952-98-3391	オークス 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立168-1 TEL0952-98-3770 FAX0952-98-3772	かんざき清流苑 〒842-0107 佐賀県神埼市神埼町鶴2927番地2 TEL0952-52-8890 FAX0952-52-9977
在宅サポートセンターかんざき清流苑 〒842-0107 佐賀県神埼市神埼町鶴2927番地2 TEL0952-52-8915 FAX0952-52-9977	からつ医療福祉センター 〒847-0001 佐賀県唐津市双水2806 TEL0955-70-3580 FAX0955-78-0683	からつ医療福祉センター-在宅事業部 〒847-0001 佐賀県唐津市双水2806 TEL0955-70-3580 FAX0955-78-0683	からつ医療福祉センター-好学舎 〒847-0001 佐賀県唐津市双水2787-1 TEL0955-78-1123 FAX0955-78-3001
糸島こどもとおとなのクリニック 〒819-1301 福岡県糸島市志摩井田原63-1 TEL092-327-0073 FAX092-327-0361	かんざき日の隈寮 〒842-0107 佐賀県神埼市神埼町鶴2950-2 TEL0952-52-2229 FAX0952-52-7229	佐賀向陽園 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立801-1 TEL0952-98-1074 FAX0952-98-3145	居宅介護支援センターわいわい 〒849-0906 佐賀県佐賀市金立町大字金立799番地 TEL0952-71-8250 FAX0952-71-8252



コロナ禍の中で見えてきたもの

こども発達医療センター
小児科長

久保 和泰

日本で初めて新型コロナウイルスの感染者を認めてから1年が過ぎ、今もなおその勢力は衰えることなく、第3波と言われる感染拡大の状況の中で職員の皆様も制限された生活を送っていることと思います。先が見えない状況の中でいつまでこの不自由な生活を送らなければならないのか、自分が感染してしまうかもしれないリスクも合わさって、ストレスは募る一方ではないかと思われまます。「日本全国が同じ状況だから仕方がない」との思いで、この現実を受け入れて来ましたが、長期化することで、精神的に不安定になる利用者の方や離職していく職員が増えているように思えます。

しかし、過去に人類を苦しめてきた結核やインフルエンザ等の感染症を克服して来たように、今回も必ず乗り越えることができるはずで、安全なワクチンが接種でき、かつ、特効薬が開発されるまで、何があっても諦めない気持ちを持ち続けることが大切だと思っています。

ただ、諦めない気持ちは簡単に持ち続けられるものではなく、ともすれば、その気持ちを萎えさせるような言葉も飛び交っています。「不要不急」もその一つで、特に「不要不急の外出自粛」に私達は振り回されてきたように思います。極端なことを言えば、「不要不急」とは生きていくために直接「必要」ではないもの、つまり、生命の維持にとっては過剰なものと言い換えられます。しかし、この「不要不急」を止めると経済が回らなくなり、経営危機に陥る飲食店や旅行関連会社が後を絶たず、生活困窮者が増えています。だとすれば、現代の私達の生活は「不要不急」なもの、過剰なものによって支えられていると言っても言い過ぎではありません。

私達はただ生存のためだけに生きているわけではありません。古代ローマ人が「パンとサーカス」と言ったように、この社会には「パン」のみならず「サーカス」も必要です。生存に関わる生だけでなく、精神にゆとりをもたらす刺激も必要です。「サーカス」は生存にとっては過剰なもので、必要なものではありません。しかし、この過剰なものこそが人類に文化を生み出したと考えられます。人を動物から区別するものは、ただ生存のためだけの食料の確保ではなく、「文化」という「不要不急」なものを生み出し、その

ために過剰なエネルギーを使うことにあると思います。そして、私達はその「文化」を発展させ、いかに人生を豊かに過ごすかということに力を注いできました。しかし、今、コロナ禍の中で「何が不要不急なのか」という大きな問いに直面しています。生存の確保だけではなく、いかなる生、いかなる社会を我々は望ましいと考え、いかなる文化を残すかという価値をめぐる問題があります。

「必要」と「不要不急」の区別はあいまいです。人は最低限の「必要」だけで生きているわけではありません。しかし、また、「不要不急」の無制限の拡大は、人の生から本当に必要なものを奪いかねません。その違いを考え続ける中で、「必要なもの」と「不要不急なもの」の間に、実は、「大切なもの」があることに気がつきました。

信頼できる人間関係、安心できる場所、地域の生活空間、馴染みの店、背中を押してくれた言葉、大切な書物や音楽、見慣れた街路、四季の風景、澄んだ大気、大切な人、大切な思い出。

これらは生存に関わる「必要」と「不要不急」に分類されるものではありません。人生を営んでいく中で自然発生的に生じたもので、「必要」も「不要不急」も、この「大切なもの」によって支えられ、またそれを支えるべきものです。

「不要不急の外出自粛」の行き過ぎは「自粛警察」といった人々の不信感をあおる行動を引き起こします。また、人生の活動の適当なサイズを忘れ、その充実のための無限の拡大が良いわけでも決してありません。いずれの行き過ぎも「大切なもの」を失う結果となり、「コロナ後」の私達の社会にも深い傷を残しかねません。

コロナ禍の中で失われたものは戻らないかもしれません。「悲しみは消えない」と言う人に、告げる適切な言葉は見つかりません。価値観の違う人同士がわかり合うことは難しいかもしれません。それでも、大きな困難はより良い社会への原動力になります。また、そうしていかなければなりません。「大切なもの」を大事にすることが「コロナ後」の社会に希望をもたらすと信じて2021年を過ごしたいと思います。

職員 宿舎

からつ医療福祉センター職員アパート新築工事

からつ医療福祉センターでは、プロポーザル型入札会にて選定された業者と請負契約を締結し、令和2年11月から職員アパートを建設中です。職員募集のエリアを拡大し、唐津の地で居住していただくための職員採用ツールの一つとして、また外国人留学生の雇用も視野に入れ、今後順次整備を進めていく予定です。

竣工は令和3年3月を予定しており、新規採用職員研修会の前には入居していただけるように、駐車場についても並行して整備をしていきます。

工事期間中は、近隣住民の方にはご迷惑をお掛けいたしますが、安全第一で施工を進めていきます。今号が発刊される頃には、新築の職員アパートが完成していることと思います。



○事業名：佐賀整肢学園からつ医療福祉センター
職員アパート新築工事

○施工業者：笹川工建株式会社

○構造：木造合金メッキ鋼板葺2階建て 10室

○面積：21.51㎡×10室 215.12㎡（延床）

（からつ医療福祉センター 総務課 田中 邦典）

定年 祝賀

法人内の各施設に勤務され、3月末で定年を迎えられた 14名の職員からのメッセージをお届けします。

川浪美沙子（看護師）

こども発達医療センター第1療育課課長
職場、仕事、同僚に恵まれ、定年を迎える事が出来ました。
職場の皆様と家族に感謝致します。

松尾 弘子（児童指導員）

こども発達医療センター第2療育課課長
60歳、この年まで働けた事に感謝申し上げます。
整肢学園と職員の皆様ありがとうございました。

大塚 寛美（看護師）

こども発達医療センター第3療育課課長
23歳で入職し、この度定年という節目を迎える事になりました。
知りあえた職場の皆様と家族に深く感謝しています。
今後もよろしくお願ひ致します。

吉倉由美子（看護師）

こども発達医療センター第2療育課副課長
お陰様で、定年を迎える事となりました。
35年の長きに亘り勤める事が出来て皆様には感謝あるのみです。

寺地 富枝（看護師）

こども発達医療センター第1療育課看護係副係長
この度、無事に定年を迎える事が出来ました。
辛い時もありましたが職員の皆様に支えられ、また利用者様の笑顔に救われ、勤務できた事に感謝申し上げます。
ありがとうございました。

深町 恵子（保育士）

こども発達医療センター第1療育課生活支援係副主任
職場の皆様に支えられ、充実した日々を過ごす事ができました。
16年間お世話になりました。本当にありがとうございました。

西國 朝子（看護師）

こども発達医療センター第2療育課看護係副主任
定年を迎え、家族、スタッフの方に感謝です。
毎日楽しく仕事をすることができました。ありがとうございました。
あと何年かお世話になります。

東島眞美子（看護師）

こども発達医療センター第3療育課看護係副主任
中途採用で色々覚える事ばかりで大変でしたが、あっという間の14年でした。自分が定年を迎えることが出来たのは皆様のおかげだと感謝しています。
今後もよろしくお願ひ致します。

加茂 和子（准看護師）

こども発達医療センター第1療育課看護係
この度は、皆様のおかげで無事に定年を迎える事が出来ました。
泣いたり笑ったりの37年とても充実した日々でした。
ありがとうございました。

山本 浩（生活相談員）

オックス在宅サービス課
平成9年のオックス開所時より勤務し、無事に定年を迎える事となりました。
制度改正の中、悩むことも多くありましたが、皆様に支えられ、ここまで来られた事に感謝し、引き続き勤務して行きたいと思っておりますので、よろしくお願ひ致します。

古賀 裕子（生活支援員）

オックス入所サービス課
平成11年に入職して21余年、3月末で定年を迎える事になりました。
これまで長く続けられたのも、先輩の方々、上司、職場の皆様のおかげです。色々とお世話になりました事を心より御礼申し上げます。これからも、もう少しお世話になりますので宜しくお願い致します。

橋本 紀子（言語聴覚士）

からつ医療福祉センターアルトン外来診療部リハビリテーション課技術監
前任の優秀な言語治療士の後釜として、「だいぶ見劣りするなあ」「初の国家試験に受かるんかいな」と危惧されながらも採ってもらって30有余年。
わがまま放題でした。感謝しかありません。

岡本 節子（調理師）

からつ医療福祉センター児童センター管理部児童センター課栄養管理係副主任
何をして中途半端だった私が、こうして定年を迎える事が出来たのも、職場の皆さんに恵まれたからと、感謝しています。
これからも健康第一に頑張っていきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

米倉眞寿美（看護師）

からつ医療福祉センターアルトン入院診療部看護生活科看護係
入職して5年、仕事での事故や病気もなく定年を迎えることが出来たのも、皆様の支えがあったからだに感謝しています。今後もお世話になりますのでよろしくお願ひします。

ボッチャ体験会

11月 オークス

11月7日、ボッチャ協会の方を招いてボッチャ体験会を行いました。ボッチャとは、脳性麻痺などにより、運動能力に障害のある競技者向けに考案された障害者スポーツの一つで、パラリンピックの正式種目です。ボッチャは日頃の活動で何回も楽しんできましたが、今回は公式のルールや道具を使ったり、ラインを引いてもらったりして、いつもとはまた違った本格的な雰囲気の中、試合も行いました。



自分で遠くにボールを投げることができなくても、「ランプ」というレールを使用すれば、いつもより遠くへボールを転がす事ができ、転がるボールの行方を一喜一憂しながら見守る姿が見られました。

後半はグループホームあつたか利用者と放課後等デイ利用者で何回か試合も行い、大盛り上がり!自分の順番を楽しみにしたり、お互いを応援し合ったり、一人ひとりの良さが見える体験会になりました。

(在宅サービス課 地域支援係 児童発達支援管理責任者 高島 隼平)



運動会

11月 かんざき清流苑



利用者の方は「パン食い競争楽しかったよ。なかなか取りきらんやったけん、職員さんがこっそり持ってきてくんさったよ。」と笑って話してくださいました。勝負はつかず引き分けに終わりましたが、たくさんの笑顔が見ることができて本当に嬉しく感じました。今後もまだコロナの終息が見えないため、より一層利用者の皆さんに寄り添う支援を目指し、努めてまいります。

(入所サービス課 介護福祉士 御厨 和子)

新型コロナの影響で行事が中止や縮小となり、家族様との面会も制限をされる日々が続くことで、利用者の皆さんから笑顔が減り心を痛めておりました。そんな中、少しでも利用者の皆さんに元気を取り戻し、たくさんの笑顔を見せていただこうと、11月12日に運動会を行いました。利用者の皆さんと職員はそれぞれに赤組と白組に分かれ、利用者の方が団長、職員が応援団長をつとめ、競技中は太鼓やタンバリンで応援を頑張りました。競技では、パン食い競争や玉入れなど、利用者の皆さんと職員が力を合わせ、楽しい時間を共有することができました。ある利



利用者送迎用車両の整備 (赤い羽根共同募金) 11月

かんざき日の隈寮



たことにより、急な外出や通院にも対応できるようになり、外出先での車の故障もなくなり、送迎をより安全に安心して行うことができるようになりました。利用者の方からは、「広い車内で開放感がある」との声があり、運転する職員も、快適な車両と利用者の皆さんの笑顔がみられてうれしくなります。これからも、利用者の皆さんの処遇向上のため、安全・安心に配慮した生活環境の設定・支援を提供していきたいと思ひます。

(入所サービス課 看護師 古賀 由紀子)

日の隈寮では、利用者の疾病や障害の多様化に伴い、医療機関への通院送迎が年々増加傾向にありました。また、所有している軽自動車の内2台については、経年劣化での不具合が頻発しており、車両の入れ替えは急務となっていました。

今回、赤い羽根共同募金令和2年度事業により、11月末に軽自動車1台を整備しました。送迎車両が増え



事業所 TOPICS

(11月～2月)

クリスマス会

12月

こども発達医療センター



12月25日に第1病棟で、クリスマス会を行いました。今年度は、新型コロナウイルスへの感染対策として、ステージと歓談席の距離を取り、職員はマスクと眼鏡を着用した上で実施しました。また、大きい声は控え、手拍子や楽器等で盛り上がりま

した。

利用者の皆さんは、ダンスと劇を披露されました。まず、可愛いサンタ服を着て「ジングルベル」の音楽に合わせてダンスを披露し、会場を盛り上げていました。劇では、今話題の「鬼滅の刃」をテーマにキャラクターの衣装を着て熱演されました。この日のために、日頃の空いた時間を使ってコツコツと練習をされ、本番では練習の成果を十分に発揮されていました。

次は、看護師や生活支援員の職員総勢10名によるダンスです。普段は真面目な職員がノリノリの音楽で踊る姿に、利用者の皆さんは大いに喜ばれていました。また、職員による歌や楽器の生演奏もあり、それをBGMにケーキやジュース、お菓子等を食べながら楽しめました。そして、今年もサンタさんがたくさんのプレゼントを利用者の皆さんへ届けてくれて、皆さん大喜びでした。

利用者の皆さんと一緒に、楽しいクリスマスを過ごすことができました。



(第1療育課 生活支援員 原 百花)

令和3年度 新規採用職員内定式12月

からつ医療福祉センター

12月26日、令和3年度新規採用職員を対象に内定式を開催しました。

コロナ禍ではありましたが、大型の空気清浄機を整備し、11月までの採用内定者(からつ医療福祉センター7名、好学舎2名、糸島こどもとおとなのクリニック5名:計14名)のうち13名の皆さんに参加いただき、内定通知書を交付しました。式典の後は、配属予定先所属長により制服の採寸等を行い、現在建設中の職員アパートの見学をしました。高卒採用の内定者も、制服ではなくリクルートスーツでの参加となり、少し早い新たな門出となりました。



新規採用職員の皆さんが一日も早く業務になじめるように、職員一同そして利用者の方々も応援しています。頑張ってください。

例年であれば令和3年3月から新規採用職員研修が始まり、4月1日の辞令交付式となりますが、コロナ禍ということもあり現在スケジュールについては不透明な状況です。新型コロナウイルスの早期終息を祈るばかりです。

(総務課 課長 富永 創)



リモート節分・豆まき

2月

佐賀向陽園・わいわい

今年は、明治30年以来124年ぶりに立春の日がずれ、2月2日に節分の日を迎えました。新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、リモートにて向陽園、わいわいデイサービス、グループデイサービスと分散して節分・豆まきを行いました。そもそも豆まきは、鬼に向けて邪気を追い払い、無病息災を祈るものです。そこで鬼をコロナウイルスに見立てて



「コロナ、なくなれ」と新型コロナウイルスの収束を利用者の皆さんと願い、最後は施設長によりコロナウイルスに効くワクチンを接種、コロナウイルスは倒れ、利用者の方、職員共に大いに盛り上がりました。このコロナウイルスが倒れたように1日でも早く新型コロナウイルスが収束し、また利用者の皆さんと共に和気あいあいと豆まきができる日を心待ちにしています。

(在宅サービス課 介護職員 片瀨 瑞紀)

タイムス特集

「さが彩発見」と題して、不定期に銘菓や伝統行事、特産品など、隠れた佐賀の魅力を取り上げていきます。

さが彩発見

File : 8 佐賀の公園特集

コロナ禍で、なかなか外出がしにくかったり、イベントがなくなって少しストレスが溜まってきている方も少なくないと思います。そんな今、気分転換のお出かけの定番になりつつあるのが公園です。佐賀には実はたくさんの公園があるんです。遊具で遊んだり、ゆっくり散歩したり、木々を眺めたり…。なかなか遠出が難しい今こそ、公園でのんびりと時間を過ごしてみませんか。

松浦河畔公園



遊具がリニューアルしました！ぜひ遊びに行かれて下さい。

唐津市原 1774-1

金立いていの広場



遊具や草スキー場、バーベキュー炉もあり自然を満喫できます！

佐賀市金立町大字金立 1197-331

吉野ヶ里歴史公園



全国的に有名な吉野ヶ里遺跡を中心とした国営・県営公園。ダイナミックな遊具や野外炊事コーナーなど思いっきり遊べます。

神埼郡吉野ヶ里町田手 1843

小城公園



桜の名所としても有名な小城公園。3月下旬からは約3000本の桜が見頃を迎えます。

小城市小城町 185

干潟よか公園



急角度のすべり台！度胸試しに行かれてみてください。夏にはムソゴロウ池で水遊びもオススメ。

佐賀市東与賀町大字下古賀 2885-2

神野公園こども遊園地



神野公園内にある入園料無料の遊園地！ミニSL、ミニジェットコースターなど、休日は家族連れで賑わいます。

佐賀市神園 4丁目 1-3



学園 FOCUS

佐賀整肢学園で活躍する様々な人に焦点を当てる「学園 FOCUS」。

今回は、オックスの百武和哉さんに、大学時代から続けられている「アルティメット」というスポーツについて熱く語って頂きました。

Q アルティメットはどんなスポーツですか？

A アルティメットとは俗にフリスビーと呼ばれるフライングディスクを使ったスポーツです。7人对7人で敵味方に分かれ1枚のディスクをパスしながら運び、敵陣の決められたエリアまでディスクを運べると得点が入ります。1968年アメリカの高校生によって考案されたニュースポーツで、特徴としては自己審判制(セルフジャッジ)を採用していて、自分たちで審判を行います。



Q いつから始めましたか？ 出会いのきっかけは？

A 大学に入ってから始めました。実はアルティメットの競技人口の約9割の方が大学から競技を始めています。きっかけは大学のサークル体験です。入学してすぐのサークル体験に友達から一緒に行かないかと誘いを受けたので、軽い気持ちで体験に参加しました。その時にディスクを投げる難しさと、上手く投げることができた時の喜びにはまり込んでしまいました。

Q アルティメットのおもしろさ・魅力を教えてください

A アルティメットはディスクを保持している選手は歩けない、つまりドリブルがない競技なのでパスを



ひやくたけ かずや
百武 和哉 さん

オックス 在宅サービス課
生活支援員

しないと前に進めないのが、難しさであり、面白さだと思います。ディスクを保持している選手以外の6人がどのように動くか、もしくは動かないか。ディスクをどうやって前に進めていくのかを考えるのはこの競技の面白さの1つだと思います。



Q 最後に一言

A 私は現在、福岡のチームに所属しています。毎週日曜日に海の中道海浜公園にて活動を行っています。今はコロナの為活動自粛中ですが、普段は学生も社会人も混ざって活動を行っています。初心者の方でも大歓迎ですので、興味のある方はぜひ一度足を運んでみてください。



NEXT…佐賀向陽園・わいわいのあの人に FOCUS!!

局長随想 ちつきよ 蟄居に終わりを

本稿をしたためているこの時期は季節の変わり目であり、間もなく二十四節気でいう「雨水」から「啓蟄」へと移り変わる時季を迎える。

二十四節気とは、陰暦で1年を春夏秋冬の4つの季節に分け、更にそれぞれを6つに分けたもので、2月4日頃の春の始まりの日「立春」から、寒さのピークの1月20日頃の「大寒」までの24の節気が設けられている。「雨水」は空から降るものが雪から雨に変わり、氷が溶けて水になるという意味で、草木が芽生える頃で、農耕の準備を始める目安の時期である。そして、「啓蟄」とは「雨水」から数えて15日目ごろ、今年は3月5日に当たる。「啓」は「ひらく」、「蟄」は「土中で冬ごもりしている虫」の意味で、冬眠していた虫が春の訪れを感じて穴から出てくる頃になる。「蟄」の漢字から連想的に頭に浮かぶのは「蟄居」の語である。国語大辞典言泉によれば、「昆虫などが冬眠のために地中にこもっていること。転じて、家の中に閉じこもって外に出ないこと。また、田舎にしりぞいていること。」とされている。

現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため10都府県に緊急事態宣言が発出されている。これらの地域では、3月7日までの期間、飲食店に対する営業時間短縮、外出自粛、テレワークの徹底などが求められている。これらの地域以外でも、3つの密（密閉・密集・密接）を避けて、ソーシャルディスタンスを確保するようとの指示の下、昨年からの長い蟄居生活を強いられている状況にある。緊急事態宣言が全面解除され、コロナ禍が終息し、不要不急の外出も大手を振って行えるような、我々の啓蟄の日はいつになったらやって来るのか。待たれることである。（法人事務局長 寺崎 敏光）

令和2年11月～令和3年1月

協賛ボランティア

- 【こども】 整肢学園友の会様 親和会様
- 【清流苑】 ビバーラ神埼様 藤間静浄様（日舞）
- 【日の隈】 藤間静浄様（日舞クラブ）

施設見学来訪

- 【清流苑】 神埼清明高校 42名様
- 【かわ・ぼ・ね】 (か) 唐津特別支援学校 27名様 清和保育園 3名様 児童発達支援センターくれよん 2名様 (好) 有田町子育て支援課 1名様 相知地区民生児童委員協議会 8名様 (糸) 笹山幼稚園 2名様 さいとみんなの家 1名様

実習生受入

- 【こども】 西九州短期大学地域生活支援学科 1名
- 【清流苑】 好生館看護学院 4名
- 【かわ・ぼ・ね】 (か) 西九州大学看護学科 4名
- 【日の隈】 西九州大学社会福祉学科 1名

見どころ

令和3年に入りましたが、新型コロナウイルス感染拡大が続いておりこれまで当たり前であったことが当たり前ではない日が続いています。そんな中でも前向きに物事を捉え、心に余裕を持って生活を送りたいものです。学園タイムスは、日々医療福祉従事者として頑張る皆さんに感謝とエールをお届けします。Be proud of ourselves and stay positive all the time!



Relay Column



からつ医療福祉センター好学舎
男子棟課支援係
児童指導員

ありむら ふみや
有村 史也

皆さん、児童心理治療施設とはどういう施設なのかご存知でしょうか？「どんな人が入所しているの？」「どんなことを支援しているの？」と疑問に思う方も多いと思います。今回のリレーコラムを通して少しでも皆さんに知っていただければと思います。

入所されている子どもたちは発達やご家庭など様々な課題を抱えています。私達が子どもの頃お父さん・お母さんに育ててもらえた心や体ができていないため、「え、それができないの？」「それで泣くの？それで怒るの？」「そんなに落ち着かなくなるの？」と思うことがよくあります。好学舎職員はそんな子どもたちの気持ちに寄り添いながら、入所されている子どもたちがいつか大人になって「今元気でやってるよ」と言ってくれることを楽しみにしながら支援を行っていきたくと思います。

NEXT…からつ医療福祉センターのあの人にパトタッチ!!